

【会議録】

令和元年度  
湯沢市若者や女性が輝くまちづくり推進協議会  
テーマ「公共施設の未来を考える」＜2回目＞

日 時	令和元年8月21日（水） 17:30～19:30																						
場 所	湯沢市役所本庁舎 会議室 23・24																						
委 員 出 席 者	<p>委員 鈴木 アヒナ麻由 藤原 尚也 田中 健大 高橋 清子 柴田 麻衣子 藤原 さくら 門脇 悠羽 沓澤 繁幸 土田 一宇宙</p> <p>(計9人)</p>	<p>座席</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 30%;">柴田 麻衣子</td> <td style="width: 40%; border: 1px solid black; height: 100px;"></td> <td style="width: 30%;">鈴木 アヒナ麻由</td> </tr> <tr> <td>藤原 さくら</td> <td style="border: 1px solid black; height: 100px;"></td> <td>藤原 尚也</td> </tr> <tr> <td>門脇 悠羽</td> <td></td> <td>田中 健大</td> </tr> <tr> <td>沓澤 繁幸</td> <td></td> <td>高橋 清子</td> </tr> <tr> <td>土田 一宇宙</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border: 1px solid black; height: 30px;"></td> </tr> <tr> <td colspan="3">市 アドバイザー</td> </tr> </table> 	柴田 麻衣子		鈴木 アヒナ麻由	藤原 さくら		藤原 尚也	門脇 悠羽		田中 健大	沓澤 繁幸		高橋 清子	土田 一宇宙						市 アドバイザー		
柴田 麻衣子		鈴木 アヒナ麻由																					
藤原 さくら		藤原 尚也																					
門脇 悠羽		田中 健大																					
沓澤 繁幸		高橋 清子																					
土田 一宇宙																							
市 アドバイザー																							
市出席者	湯沢市公共施設アドバイザー、企画課長、企画政策班長、担当 (計5人)																						
説 明	<p>企画課</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前回の振り返り、会議の流れ</li> <li>○湯沢市公共施設再編計画（中間案）の説明</li> <li>○集会施設の現状と今後の方向性</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>																						

○情報提供 湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫 氏  
 演題 「集会系施設点検の視点」



意見交換 テーマ「集会施設の計画案をどう考えるか」



沓澤委員 町内会・集落単位の集会施設では、資料に載っていない施設もある（市の所有でない施設）ので、あらためてどこが運営しているか確認してきた。集会施設はたくさんあるので、特にお年寄りの足の問題がクリアできれば、こんなにいらないのかなと思った。

市 いろいろな会議等でも、公共交通についての御意見をいただくが、利用者が少ないために減便せざるを得ない状況となるなど、悪循環を繰り返している。

施設の再編に当たっては、高齢者の方など交通弱者への配慮は当然しなければならないと考えており、路線バスが運行していないところには、乗合タクシーを導入するなど行っているが、今後も、施設利用を積極的に行えるように検討していかなくてはならない。

また、スクールバスの混乗化など、地域の方たちも利用できるような仕組みづくりも検討している。

土田委員 地区センターやコミュニティセンターなどいつも見かけるような、市外の人も知っているような施設については、知名度もあるし利用する機会もあると思うので、市が管理し、今後も継続して維持していくことは必要だと思う。

町内会・集落単位の集会所では、旧秋ノ宮診療所など、存在も分からなかった施設があり、基本的には地域住民などいつも使っている方の利用に限られてくると思うので、それを譲渡す

	<p>ることは適切だと思う。ただし、無償で譲渡しても、維持していくことが地域住民の負担になると思うので、そのサポートは必要になるのではないかと。一方で、現在も多くのところは自分たちの集落でこれまでもやりくりしてきているので、あまり変わらないのではないかと。思う。</p>
市	<p>基本的には多くの集落、町内会では自前で建設、管理しているが、合併前の市町村の施策の違いなど、いろいろな経緯があって、まだ市が所有して、中には市が管理費を払って管理してもらっているところもある。それをいきなり、この施設は譲渡するので明日から自分たちで管理してもらうなどといったことにはならない。時間をかけて説明、協議をして、市が一定程度支援をしながら譲渡という形にできればと思っている。</p>
田中委員	<p>資料を家で読んでみたが、ページ数が多く、あらためて湯沢市は公共施設をたくさん持っているのだと感じた。この公共施設を全部維持していくというのは現実的に難しくなってくると思ったが、そうなったときに、複合化や集約化は将来絶対に必要になると思う。</p> <p>交通機関など、そういう問題点を洗い出して、地域住民の方々との話し合い等があると思うので、なかなか難しいとは思いますが、早く解決できるようにすることが大事だと思った。</p> <p>自分の周りの人たちに考えを聞いてみたが、例えば生涯学習センターが移転、新築となったとき、新しいものを集約して作る時は、1つの施設で若い世代やある程度年齢層の高い世代等、幅広い年齢層が使えて、イベントができるような施設にしてほしいという希望があったので、そういう意見をふまえてほしい。</p>
市	<p>再編計画中間案では、湯沢生涯学習センター、湯沢勤労青少年ホームは、耐震基準に課題があり、土石流・急傾斜警戒区域にあるため、移転、複合化の方向性としている。同じく湯沢図書館についても、耐震基準に課題があるほか、駐車場も狭いことなどから、移転、複合化の方向性である。当然、人で賑わい、幅広い年代に使っていただけるような施設になるよう検討していく。</p> <p>地区センターについては、今年度から協働のまちづくりを担当する課が所管することとなり、地域課題の解決に自主的に取り組むための仕組みづくりを検討しているところである。拠点としての施設をしっかり維持し、そこを使って地域づくりをする体制、組織をもっと強いものにしていかなければならない。</p>
藤原さくら委員	<p>羽後町出身のためかもしれないが、湯沢生涯学習センターは普段から認識しておらず、利用しないから目に入ってこないし、何をするとところなのか分からない。そういうふう考えている中高生がきっと多いと思う。どういうことに使われているのかなど、いろいろな人に知ってもらうところから始めないと、施設の有効活用をしていくのは難しいのではないかと。思った。</p>
市	<p>数十年前の湯沢生涯学習センターは、市役所の会議や、団体の総会など会合で利用され、団体は会合の後にお酒を飲むなど宴会でも利用し、とても利用が多かった。現在は、空調の関係もあるが、古くて外観もきれいとは言えない状況なので、高校生の皆さんも、新しい本庁舎には来るけれど、向かいの生涯学習センターには入ることが少ないと思う。</p>
門脇委員	<p>雄勝地域では4つの小学校が統合したが、廃校となった学校でも利用できる体育館があることを知らない人が多いと思うので、利用できるという情報があれば、もっと活用する人が増えるのではないかと。</p>

市	<p>情報の提供の仕方については、もっと工夫しないとけないと思っている。使われていなくて利用率が低いのか、知らなくて利用率が低いのかという部分もあると思う。これまで開催した市民意見交換会でも、インターネット上で空き室の状況を確認、予約ができるシステムがあるといいという声をいただいている。利用効率を高めるためにも、情報の提供と利用しやすい環境を検討していく。</p>
柴田委員	<p>町内の会館に関しては、町内の子ども会自体も消滅しているところが結構あり、夏祭りなどの催し物もなくなってきている。自分たちの町内も、別の町内会と統合した。</p> <p>町内ごとの揉め事など難しい面もあるかと思うが、会館もたくさんあり、利用状況が低くなっているため、会館も統合して一緒に利用してもいいのではないかと思った。</p> <p>かしま館や弁天地区センターを中学校の部活動などで利用することが多く、利用料金が安いのはすごく嬉しいが、利用していない人たちの税金を使って安くなっているのもう少し料金を上げてもいいと思う。</p>
市	<p>町内会・集落単位の集会施設については、地域のコミュニティ活動の拠点と考えている。耐震基準に課題がある施設が多くあるが、施設の状態を地域の方に説明し、必要な修繕を施すなどしたうえで、譲渡したいと考えている。</p>
鈴木委員	<p>公民館の主な収入源は利用料金のみか。</p> <p>集会施設をその地域に譲渡するとのことだが、災害や事件事故があったときの責任の所在はどうなるのか。市役所が責任を負うが、マネジメントはお願いするということか。火災保険など、譲渡された後の負担があるため、押しつけのような気がする。</p>
市	<p>生涯学習センターや地区センターが公民館となっており、利用料が主な収入である。当然、収入だけで維持管理費をカバーできないので、それは施設を使用しない方々も含めた市民の皆さんのお金を使わせていただいて、財源に充てているという状況である。今の利用料金が安いのか高いのかこのままでいいのかということは、考えていかなければいけない。</p> <p>集落会館的な施設を譲渡するというということは、所有権を移転することとなるため、基本的には何かがあった場合にも、全て地元がリスクを背負うということになる。そのため、施設の状態は今どうなっていて、いつ建てられて、どういうリスクがあって、どういうことが考えられるのかを、しっかり相手方と話し合い、分かり合ったうえで譲渡することが必要である。また、いきなり押し付けて渡すという話ではなくて、何らかの支援策も考えながら、お互いどう譲歩できるのかということも考えながら、話し合いを進めていければと思っている。</p>
藤原尚也委員	<p>再編計画には、稼働率などかなり細かく書かれていて、単純にすごいなと思った。年齢別とか男女の割合とか、施設によってばらつきがあれば、そこにばらついた分の需要があるはずなので、そこに力を入れた施設があってもいいのかなと感じた。</p> <p>また、高齢者の方は足がなくて行けないという話もあったが、そもそも施設を使う人が高齢者ではなく若者のほうが多かったとすれば、公共交通が必要かといった話になるのではないかと。どういった人が使っている施設なのかというデータが取れば、それから使い道を考えるのも1つの手かなと思う。</p> <p>周知が難しいという話があったが、チラシやSNSという方法もあるが、集会施設の場合、</p>

<p>市</p> <p>高橋委員</p> <p>市</p>	<p>施設の写真を見ていくと、なかなか友達と入りたいなという気持ちあまり湧かないというか、入っても大丈夫なんだろうか、地元の人だけが行っていいところなんじゃないかを感じる。ただし、トレーニング施設もあるようなので、そういう施設は、もっと外にアピールしても良いと思う。</p> <p>スポーツ施設の中にも会議室があったり、集会施設にも運動ができる場所があったりするが、そのことを知らない方がたくさんいるのではないかと感じている。情報の提供の仕方は、しっかり検討していきたい。</p> <p>湯沢生涯学習センターを移転して、複合化することはとてもいいと思う。図書館に、カフェを設けるなど、若者も集まれる場所にすることは、とても理想的で市民も納得する建物になると思うので、ぜひ実現してほしい。</p> <p>地区センターは、老朽化も進んでいるので、その修繕はどのような計画になっているのか気になった。市民が利用するに当たっては、安全、安心でなければいけない。老人の方も、小さい子どもも行くと思うので、そういう面に配慮して、修繕していただけたらと思う。</p> <p>地区センターの修繕に関しては、危険な状態で使っていただくということは考えていない。再編計画にも、予防保全計画という言葉が出てくるが、これまでは壊れたら直すというやり方をしていたが、そうではなくて、例えばこの年数経ったら修繕するというふうに、耐用年数を延ばすような仕組みで、施設を長く使うための計画を現在考えている。</p> <div data-bbox="292 1095 821 1491"> </div> <div data-bbox="834 1095 1385 1491"> </div>
<p>説明</p>	<p>企画課 ○スポーツ施設の現状と今後の方向性</p> <div data-bbox="292 1671 834 2076"> </div>

○情報提供 湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫 氏  
 演題 「スポーツ施設点検の視点」



意見交換

テーマ「スポーツ施設の計画案をどう考えるか」



市 総合体育館にトレーニングルームがあることは知られているが、雄勝地域にも各地区センターや雄勝スポーツセンターにトレーニング用の器械が備えられていることは、あまり知られていないかもしれない。この点に関しても、情報提供の仕方が課題だと感じている。

柴田委員 総合体育館は、全県大会など大きな大会が開催できるような体育館にしたい。現在の建物の横に増築するなどして、外も広く整えて、外と中でそれぞれ運動できる大規模な施設になれば、まちも潤ってくるのではないかと。

市 総合体育館は、外観に凝った建物になっているが、今後は機能的で利用しやすい建物にすべきと思う。また、大きくて広いアリーナがあっても、そこでやる事業や各種教室などのソフト事業の展開をしていかなければ、宝の持ち腐れになってしまう。スポーツ施設以外の施設にも言えることだが、そういう仕掛けをどんどん進めて、市民の皆さんの健康増進、健康長寿を目指していかなければいけない。

藤原さくら委員 羽後町の体育館は一般的に開放されていることを住民が知っているから、中学生も小学生も空いた時間に、バドミントンなど遊びに行っている。そのようなスポーツに触れ合う機会があることはいいことだと思うし、地域住民によるスポーツ大会なども開催しているので、地域コミュニティが広がり、さらに体育館の利用も増えると思う。

市	<p>湯沢市も市民総体はあるが、競技ごとにバラバラで、いつどこで開催されているのか、関係者以外は分からない状況にある。そのような市民スポーツ大会の開催も良いと思う。</p>
門脇委員	<p>雄勝地域の各施設にあるトレーニングルームについては、知らないと使用してくれる人もいないので、他の施設にも言えることだが、情報を伝える方法もしっかり考えるべきでないか。利用者が増えると、そこからどんどん広がっていくので、やはり情報を伝えることから始めないと進まないのではないかと感じた。</p>
沓澤委員	<p>子どもが多かった時代は、子どもに関連した大会がいろいろあったが、子どもが少なくなり、今度は、健康づくりがメインとなったときに、一般市民や、お年寄りも含めた各世代の方々が、参加してみたくなるような、興味が出るような教室等があればいいと思う。</p>
藤原尚也委員	<p>湯沢市は、他の県に近いところに位置しているので、他県の強いチームを呼んで大会を開催するときに、誇れるような体育館があればいいと思う。県内の大会は、秋田市から遠いということ、他市に大規模な施設ができていくことなどから開催が難しいかもしれないが、湯沢市は野球やハンドボールなど、スポーツも強いと聞くので、他県の人を集めるというのも一つの手だと思う。</p> <p>再編計画のスケジュールについては、2021年までの検討が多いが、2020年度からの計画なので、そこから動き出すとなると、きついスケジュールになるのではないかと。せっかく、丁寧に作っているのに、最後に間に合わなくなってバタバタする気がする。</p>
市	<p>施設全体について、2021年までの検討が多くなっているが、そのような課題については、計画の成案を待たずに、既に検討を始めている。実行性の高い計画にするためにも、遅くとも2021年までには方針を確定するように進めている状況である。</p> <p>施設はたくさんあるが、どこにあって、何で使われているのか、空き状況はどうなっているのかなど分からない状態なので、一元管理して情報提供し、もっと利用率が上がる仕組みづくりを検討したい。継続する方向性であっても、そもそも利用していただかなければならないと思うので、その点は大きな課題と捉えている。</p>
藤原尚也委員	<p>スポーツ施設については若者の利用が多いので、インターネット上でホームページからサイトを見るのではなく、一回の操作ですぐ確認できるような仕組みにしてもらいたい。</p>
市	<p>近隣市町村の羽後町や横手市では、公共施設予約システムを導入している。施設情報や、空き情報が一目瞭然のシステムだが、湯沢市ではまだ導入していない。これまでも色々な機会でも、同様の意見をいただいているので、積極的に検討していく。導入には、料金の徴収方法（減額・免除の適用）など細かい課題があるため、課題を整理しながら検討に着手したいと思う。</p> <p>由利本荘市のアリーナは、指定管理者制度を導入しているが、毎週のように何かイベントが行われている。見に来るだけでも、体を動かしに来るだけでも、多くの人に利用される施設にすべきではあるが、数人で集まって少し体を動かしたいと思ったときに、すぐ使えるような、そういった利用環境を整えることも必要だと考えている。</p>
高橋委員	<p>息子が陸上をしているが、陸上競技場を整備してほしいと言っている。陸上競技場で大会が</p>

開催されれば、宿泊を伴うこともあるので経済効果もあると思う。陸上競技場の近くには野球場やテニスコート、遊具があり、駐車場が共有できるような、そういう場所があってもいいと思う。マスターズでは、広い年代の方が全国から集まってくるので、競技場があれば、湯沢市の高齢者の方も、スポーツをやる、外に出るきっかけになると思うし、健康増進につながるのではないかと。

市 陸上競技場、野球場等、総合スポーツエリア的なものは非常に理想だが、これから湯沢市がフルセット、フルスペックのものを持つというのは財政的な面からも難しい。

例えば、近隣の横手市には陸上競技場があり、硬式野球ができる立派な野球場もある。また、湯沢市には湯沢文化会館があるが、横手市の市民会館は非常に老朽化しているといった状況なので、現在は、周辺の自治体と連携して活用できないかを検討しているところである。どの市町村も同じように公共施設の課題に直面しており、これからはお互いに、お互いの施設を有効に使うための取組が必要だと考えている。施設がある市町村の人しか使えないということではなくて、連携して同じ料金で平等に使うことができないかを検討している。

田中委員 市では、スポーツ教室など講座をやっていたり、後押ししたりしているか。全て民間か。

市 基本的には、地域スポーツ文化クラブがあり、そちらの方々にお願いしているのが実情で、市の職員が直接実施している指導教室や講座は、生涯学習活動の一環で行っている程度だと思う。スポーツ文化クラブに、イベントや教室をお願いすることが多いが、そのソフト活動自体がすごく乏しいために、この会での発言はほとんどが施設で行っている中身の話になっていると思う。何も展開していないのではないかと、周知不足ではないかなど、目に見えるハードではなくソフトの話が多いと思うので、大きな建物を作るのは難しいが、中身は工夫次第で何とか改善できると考えている。

田中委員 自分だったら健康診断が近くなってくると、ちょっと走ろうかなと思うので、そういうきっかけづくりがあればいいのかなと思う。スポーツ教室など、年齢層は高めでも若い人向けでも、そういうきっかけづくりがあれば、もっと使う機会も増えてくるかなと思った。県内では、ネーミングライツしているところが増えているが、検討したことはないか。

市 ネーミングライツではないが、それに近い例としては、稲川野球場には、楽天イーグルス稲川スタジアムと書いた看板がある。収入がある訳ではないが、楽天球団が年に1回来て、子どもたちに野球教室を開いてもらうといった貢献活動をしていただいている。

(19:30 終了)